

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立義務教育学校玉湯学園前期課程

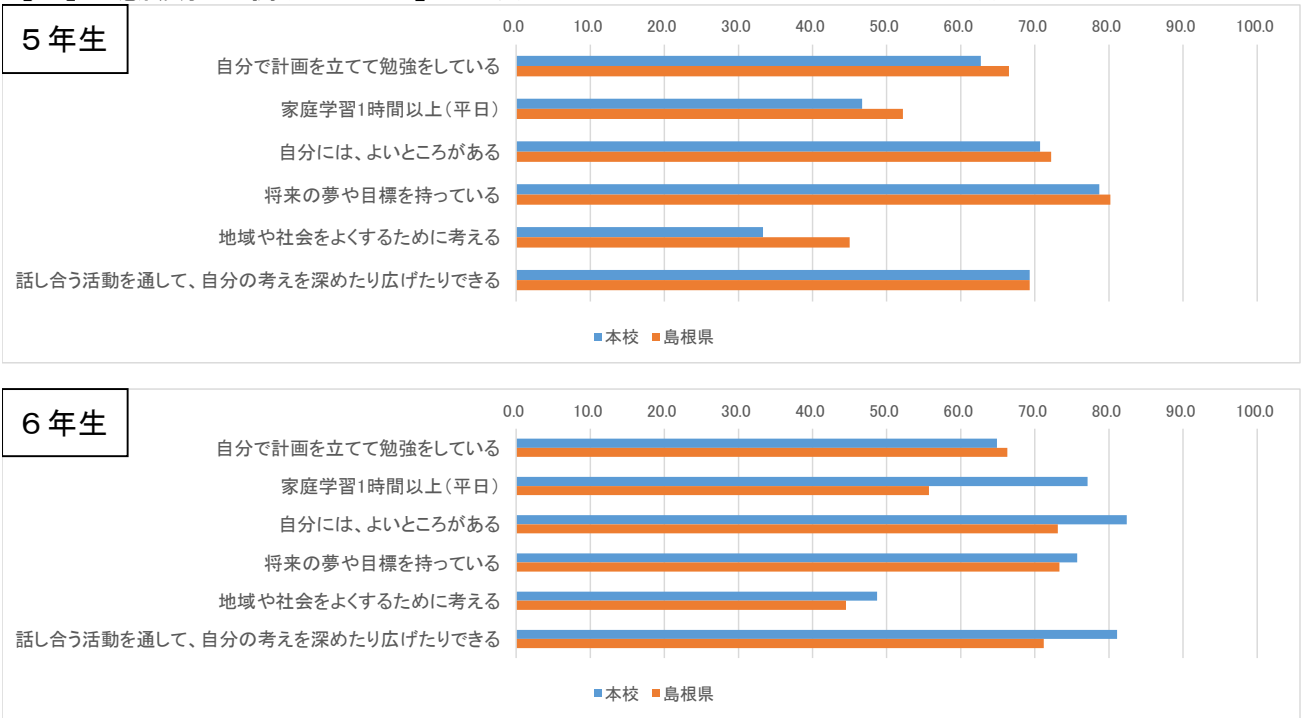
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	○聞き取り問題で話の概要を捉えることは、目標値に近い正答率である。 ○漢字の正しい読み書きについては、目標値に近い正答率である。 ●校内平均正答率は64.7%であり、県を2.7ポイント、全国を5.2ポイント下回っている。 ●大問3の(2)の言葉の学習「連用修飾語」が、国語の正答率の中で最も低く（県・全国も同様）、修飾語について学び直す必要がある。 ●「書くこと」において、指定された文字数や段落構成で書くことに課題がある。	○聞き取り問題は全ての問題で目標値、県正答率を上回っている。 ○物語文の内容読み取りの問題は、ほとんどの問題も目標値、県正答率を上回っている。 ●言葉の学習が目標値を下回るものが多い。敬語の正答率が目標値を14.3ポイント下回っている。敬語について学び直す必要がある。 ●文章を書くことは全て目標値を下回っている。段落を意識した書く活動を取り入れる必要がある。 ●書くことの全ての無回答率が同じ(17.3ポイント)で時間が足りなかった児童がいたことも予想される。時間配分も課題である。
算数	○基礎的な計算問題は無回答率も少なく、目標値に近い正答率である。 ○合同概念をよく理解している児童が多く、正答率も高かった。 ●どの領域の問題でも、文章問題の無回答率が高く、正答率も低くなっている。 ●大問⑮⑯は過半数の児童が無回答であり、最後まで解けていない児童が過半数いる。 ●文章問題では、指定された条件を満たしていない回答が多くあり、問題の意図を理解する力をつけることが必要である。	○図形領域については、目標値を上回っている。図形の学習では、ICTを効果的に活用し、視覚的な支援や学習活動に取り組むことができた。 ○変化と関係の領域では、県正答率を上回っている。 ●基礎の計算問題では回答はできているが、正答率が低くなっている。 ●どの領域においても、文章問題の無回答率が高く、正答率も低くなっている。 ●記述式の問題については、指定された条件を満たすことができなかったり、無回答が多かったりと、問題理解力を授業のなかで身に付ける必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○自分にはよいところがある、あるいは将来の夢や目標をもっている児童の割合が高い。 ○話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりする割合が高い。 ○学習の準備物を用意してから勉強するなど基本的な学習習慣が身に付いている。 ●地域や社会をよくするために考えている児童の割合が低い。 ●自分のことが好きである、自分には良いところがあると思っている児童の割合がやや低い。	○自分にはよいところがある、あるいは将来の夢や目標をもっている児童の割合が高く、自己肯定感が強い。 ○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりする割合が高く、学び合いの学習活動に意欲的に取り組んでいる割合が高い。 ●家庭学習を1時間以上取り組める割合が高い一方で、自分で計画を立てて勉強できている割合が低い。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】

5年生

75

名

6年生

73

名

（欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示）